

さがみはら生物多様性ネットワークは、生物多様性を将来にわたり保全するための取組を実施し、人と自然が共生する社会の実現を目指しています。生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは全て直接また間接的に支えあって生きています。

さがみはら生物多様性 ネットワーク ニュース

発行 さがみはら生物多様性ネットワーク



私の担当する桜美林大学リベラルアーツ学群の授業「エコロジー・デザイン特殊講義」は、環境問題の現場で活躍される方々からお話を伺うゲスト講義主体の授業です。2020年の今年には新型コロナウイルス問題の発生という事態を受けて「ポスト・コロナの環境学」をテーマに実施しておりますが、去る10月9日、「ダニ先生」としてテレビでもおなじみの国立環境研究所の五箇公一先生をお招きして、先生のご専門である生態学や生物多様性の立場から、今回のコロナ問題をどのように考えるかお話を伺いました。

五箇先生はまず、「カエルのエイズ」とも言われるカエルツボカビの拡大により、この間世界中でカエルの大量死が生じていることを例にあげながら、いまや感染症が生物全体の問題になっており、「感染症の生態学」が求められている、と述べられました。そして近年、矢継ぎ早に発生しているSARSやエボラ出血熱、エイズ、そして今回の新型コロナウイルスのような感染症の拡大は、人間による無秩序な開発＝生物多様性の破壊とグローバル化によってもたらされており、これからの世界はローカリゼーションと生物多様性の上に成り立つ「自然共生社会」が求められている、と力説されました。五箇先生のレクチャーは、Youtubeの動画「【TVでおなじみ、ダニ博士が語る】新型コロナウイルス発生の裏にある“自然からの警告”」でも見られますので、みなさんぜひ視聴してみてください。

生物多様性という「新しい生活様式」

私たちは、生物多様性をまさにウィズ・コロナ、ポスト・コロナの「新しい生活様式」の中心的な課題として考えなければいけないのではないのでしょうか。そのためにまず必要なのは、五箇先生も上記の動画で強調されているように、「地産地消」の推進です。ご承知の通り日本の食料自給率は現在38%（令和元年度）で、食料の6割を海外から輸入していますが、グローバル経済にエッセンシャルな消費を委ねていることの問題点は、今回の「マスク危機」でも明らかであると五箇先生は警鐘を鳴らされています。また、身近な自然や地域固有の文化を大切にする、都市農業を進める、なども生物多様性を保全する重要な課題です。とくに、日本における「自然共生社会」のすばらしいモデルである里山の保全は重要です。私たちも、今回のコロナ問題を機に、生物多様性という新しい生活様式をこの相模原市で実践していきましょう。

桜美林大学 リベラルアーツ学群
片山 博文 教授



会員活動 紹介

団体会員 鳩川・縄文の谷戸の会

鳩川・縄文の谷戸は相模原市南区の最南端磯部地区勝坂に存在します。ここは史跡勝坂遺跡公園予定地内にある民有地(田んぼ、畑、果樹)、未計画地の野原と斜面林、斜面林から流れ出る湧水、湧水が注ぐ一級河川鳩川を配する約1ヘクタールの谷戸地です。

会は1989年に発足しました。きっかけは新磯公民館主催のふるさと講座で現在の田んぼを借りて米作りを体験したことに始まります。休耕田になっていたため、予想以上の豊作に参加者一同が田んぼにハマって、続けることになりました。

しかしそれ以上にこの地の魅力、四季を通して様々な生きものたちとの出会い、特に水辺の生きものホタル、カエル、トンボ、水生生物、などなど。水辺が都市部から消えていく中で、貴重な存在になってしまった生きものたちを保全する必要に迫られ、田んぼが生きものたちの重要な場所であることから冬水田んぼに取り組みながら活動してきました。

大雨以外、毎日曜日、田んぼと畑の農作業、草刈り、樹木の剪定などに汗をながし、自給自足



の手作りランチをみんなで食べながら楽しく？その他、もちつき、野草のテンプラなどイベントを開催しながら活動しています。

私たちは将来、この場所の公園計画に生きものたちが豊かに育む環境として、そして子どもたちが身近な自然に触れ合える安心、安全な場所として取り入れられることを強く望んで、市のアダプト制度を活用し保全活動を続けています。

現在、会員40名ほど。若いファミリーが多いです。(鳩川・縄文の谷戸の会 代表 倉橋 満知子)



会員募集中!! 入会随時

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性の保全と一緒に取り組みませんか。ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で活動に積極的に参加していただける方であれば、どなたでも入会できます。

相模原市 生物多様性

検索



年会費…1口1,000円

個人・団体会員 / 1口以上
事業者会員 / 2口以上

発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
(相模原市水みどり環境課内)

住 所：相模原市中央区中央2-11-15

電 話：042-769-8242

Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp